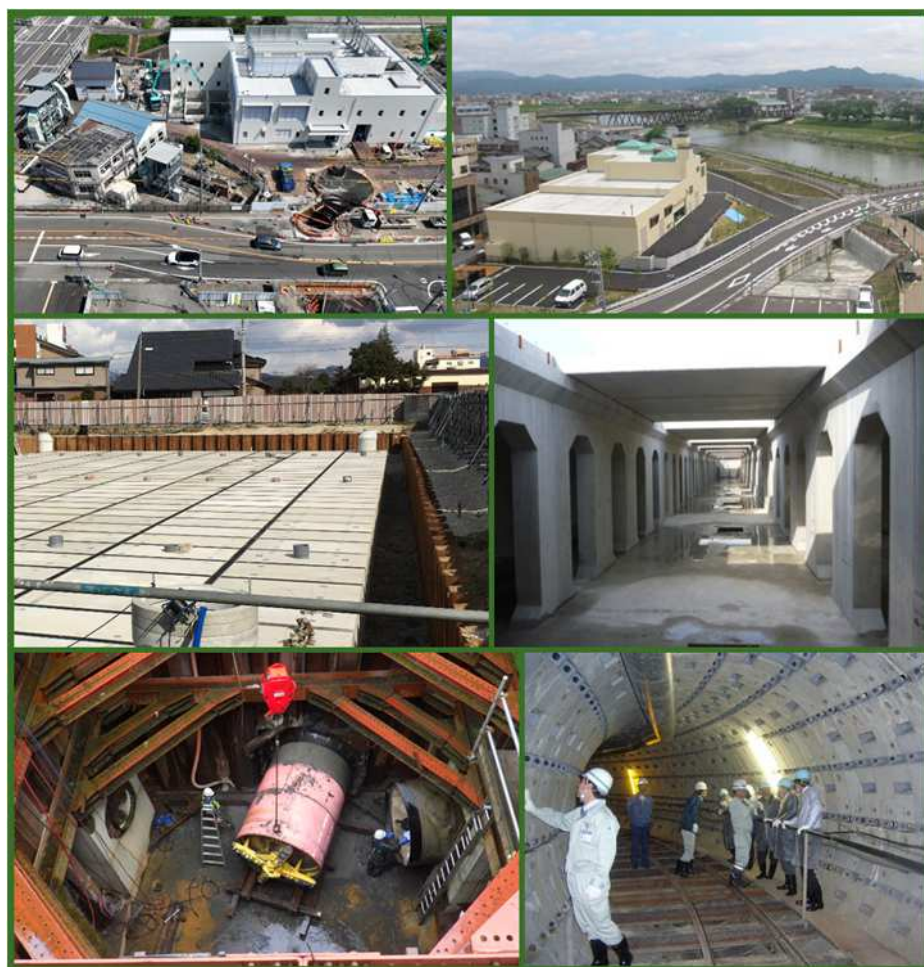


福井市下水道雨水対策実施計画

～水害に強いまちづくりをめざして～



令和6年3月

< 目次 >

1. はじめに.....	1
1.1. 策定の目的.....	1
1.2. 本計画の概要.....	2
1.3. 計画区域.....	3
1.4. 計画期間と対策目標.....	4
2. 基礎調査.....	5
2.1. 浸水被害状況の整理.....	5
3. 実施方針.....	8
4. 対策実施箇所の選定.....	9
4.1. 対策実施箇所候補地の抽出.....	9
4.2. 対策実施箇所の評価・選定.....	10
4.3. 実施方針に基づく優先順位の評価結果.....	14
5. 対策手法の選定.....	15
5.1. 浸水要因分析及び現場条件整理.....	16
5.2. ポンプ場改築・更新計画整理.....	17
5.3. 対策手法の選定.....	19
6. 年次計画.....	23
7. 実施計画管理マップの作成.....	24
8. 今後の課題.....	25
8.1. 本実施計画対策事業の進捗管理.....	25
8.2. 計画の見直し.....	25

1. はじめに

1.1. 策定の目的

本市では、下水道事業における雨水対策の在り方を示すものとして、平成27年6月に福井市下水道雨水対策基本計画(以下「基本計画」という)を策定し、令和4年3月に改定を行っている。

基本計画に基づき、確実に雨水対策を実行していくことを目的として、具体的な対策内容、計画年次などを位置付けた、福井市下水道雨水対策実施計画(以下「本計画」という)を策定する。

< 基本理念【水害に強いまちづくりを目指して】で実現を目指す将来像 > 基本計画より

計画降雨に対し、浸水被害の解消を目指す

< 基本方針【三本柱】 > 基本計画より

■ 計画降雨基準の下水道施設整備を推進

計画規模降雨 43.1 mm /h に対応した下水道施設の整備を推進する。

■ 局地的な浸水箇所への雨水流出抑制施設等の整備を推進

局地的な浸水に対しては、浸水シミュレーション等を実施し、整備効果を確認した上で、効果的な施設整備を推進する。

■ 計画規模を超える雨に対する自助・共助の取組を促進

計画規模を超える雨に対しては、福井市下水道内水ハザードマップの活用や雨水タンク、止水板の設置補助や土のう配布等のソフト対策を組み合わせた自助・共助の活動を促進する。

1.2. 本計画の概要

本計画にて示す主な内容は以下のとおり。

■ 対策実施箇所の選定

近年の浸水実績や浸水シミュレーションによる浸水想定等を基に、主に重点対策地区内より選定する。

■ 対策手法の選定

対策実施箇所の浸水要因や現場条件、本市雨水対策全体の事業進捗等を勘案し、各箇所に適した手法を選定する

■ 年次計画の設定

実施優先度を整理し、年次計画・事業スケジュールを設定する。

基本計画と本計画の事業・対策内容の関係のイメージ図を図 1.1 に示す。

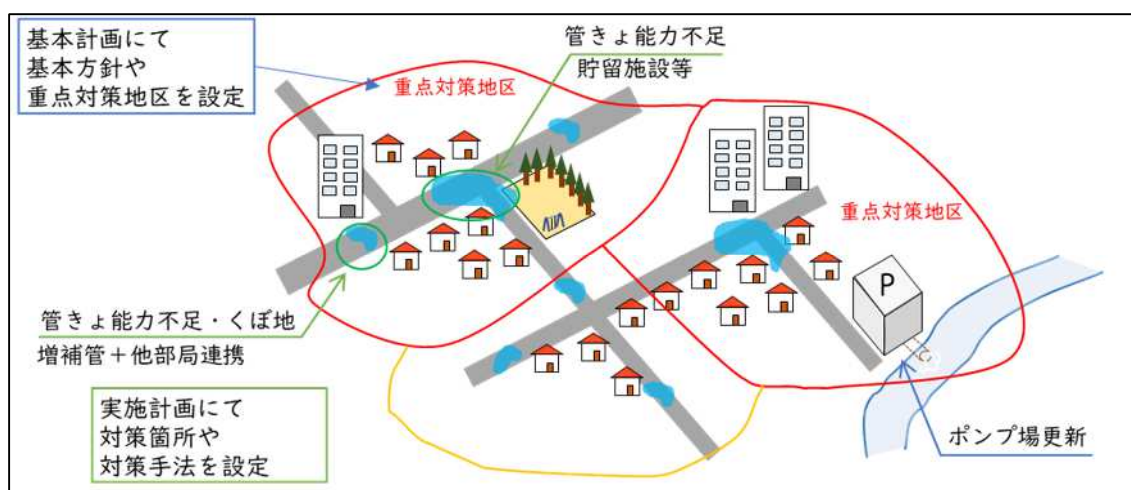


図 1.1 基本計画と本計画の関係イメージ図

1.3. 計画区域

計画区域を図 1.2 に、対象となる排水区を図 1.2 に示す。

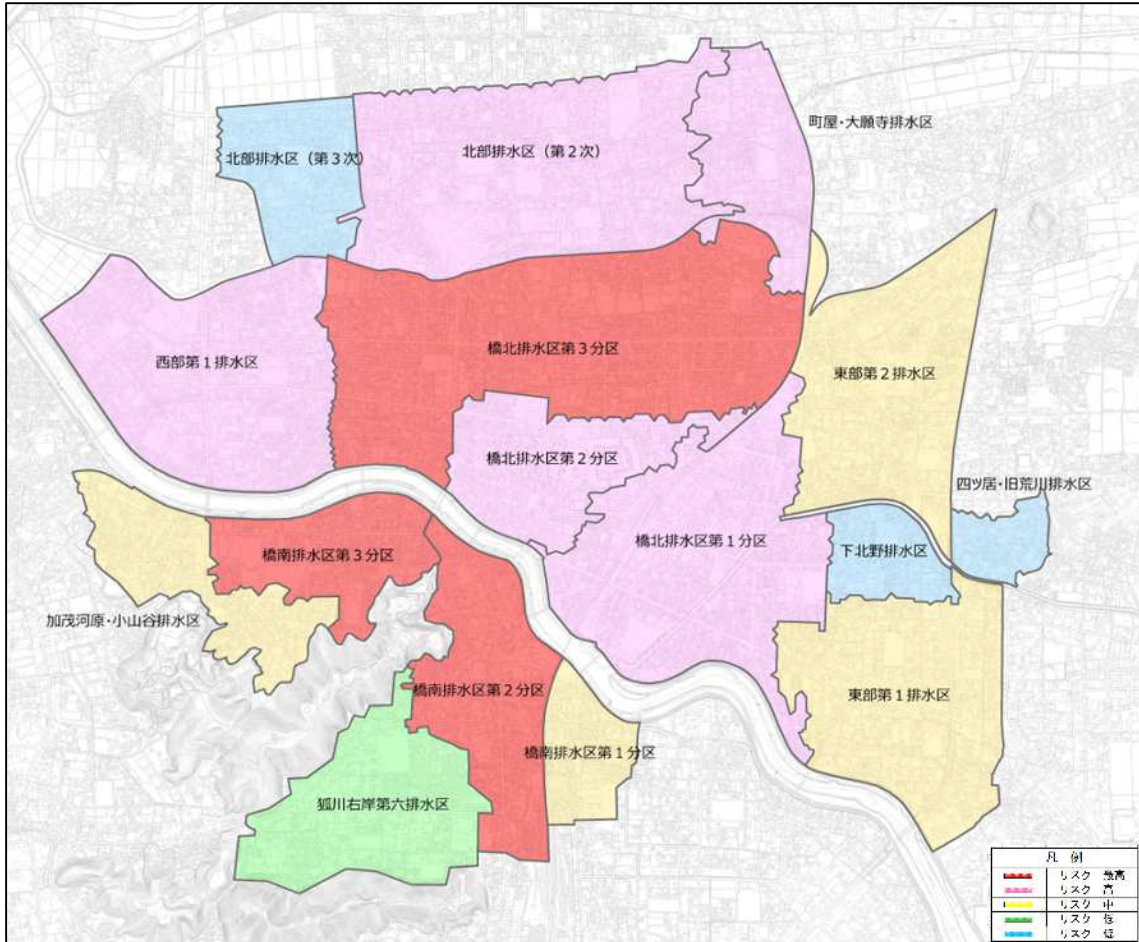


図 1.2 計画区域及び重点対策地区位置図 基本計画より

表 1.1 地区区分別の排水区 基本計画より

地区区分	排水区名
重点対策地区	橋南排水区(第2、3分区)、橋北排水区(第1、2、3分区)、北部排水区(2次)、町屋・大願寺排水区、西部第1排水区
-	加茂河原・小山谷排水区、橋南排水区(第1分区)、東部第1排水区、東部第2排水区、狐川右岸第六排水区、北部排水区(第3次)、下北野排水区、四ツ居・旧荒川排水区

1.4. 計画期間と対策目標

本計画は、基本計画における短期～中期に相当する期間（～令和13年度）を計画期間として設定する（表1.2参照）。また、本計画の対策目標は基本計画の中期目標である「重点対策地区の浸水被害軽減」とし、5対策手法の選定にて、検討を行う。

表 1.2 本計画期間と目標（：本計画対象の項目） 基本計画より

計画期間	段階的対策と目標
短期（～令和8年）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 加茂河原ポンプ場の改築・更新の施工完了 ■ 重点対策地区の浸水被害軽減
中期（～令和13年）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 足羽ポンプ場の改築・更新の施工完了 ■ 重点対策地区の浸水被害軽減
長期（概ね20年後）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 菅谷ポンプ場の施工完了 ■ 重点対策地区の浸水被害解消

令和6年3月時点で事業化していない。本計画では以降、仮に「菅谷ポンプ場建設事業」と記載する。

2. 基礎調査

2.1. 浸水被害状況の整理

2.1.1. 降雨データの整理

近年(平成29年以降)の浸水被害が発生した日付の福井地方気象台における、降雨観測データ(日合計・時間最大・10分間最大の降雨実績)と計画降雨(5年確率規模降雨43.1mm/h)との比較結果を表 2.1 に示す。

降雨の傾向として、計画降雨を超える雨が、年間で複数回発生していることが確認された。また、発生回数及び降雨量が増加傾向にある。

表 2.1 既往計画降雨と比較結果(浸水被害発生年月日のみ記載)

発生年月日	降雨量(mm)			超過降雨判定			年間超過回数		
	日合計	時間最大	10分最大	日合計	時間最大	10分最大	日合計	時間最大	10分最大
平成29年7月24日	26.0	25.0	8.5				3	0	0
平成29年8月25日	69.0	34.5	15.5						
平成29年9月7日	45.0	20.0	11.0						
平成29年10月22日	109.5	12.0	2.5				5	0	0
平成30年7月5日	106.5	16.5	5.5						
令和1年6月21日	48.5	28.5	12.0				1	0	0
令和1年7月18日	78.0	39.0	12.5						
令和1年10月3日	36.0	34.5	9.0						
令和1年10月19日	35.5	27.5	9.5				2	2	2
令和2年6月14日	103.5	36.0	12.0						
令和2年6月28日	78.5	36.5	12.5						
令和2年8月11日	46.0	45.0	16.5						
令和2年9月4日	56.5	55.0	23.0				3	1	0
令和3年7月8日	43.5	34.5	10.0						
令和3年7月29日	107.0	44.0	16.5				2	2	2
令和4年7月3日	102.5	70.0	18.0						
令和4年8月4日	152.5	37.0	10.5				6	2	0
令和5年7月13日	106.5	47.5	11.0						
令和5年9月6日	57.0	45.5	13.5						
合計				10	6	2	22	7	4
既往の計画降雨強度式との各降雨量区分での超過有無の判定を行った	61.4	43.1	16.9				令和5年9月末時点		

2.1.2. 浸水被害の発生状況

平成16年7月の福井豪雨以降の浸水被害(道路冠水含む)を表 2.2 に示す。

家屋浸水被害(床上・床下浸水)の件数は、平成20年前後に比べ、近年は減少傾向にあり、福井豪雨以降に実施している浸水対策事業の効果が発揮されているものと推測される。

しかしながら、計画降雨規模未満の降雨であっても道路冠水が頻発していることや、家屋浸水被害が発生していることから、今後も、計画降雨規模のハード整備を着実に進め、浸水被害軽減を図っていく必要がある。

表 2.2 平成 16 年 7 月福井豪雨以降の主な降雨と浸水被害の状況

発生年月日	降雨量 (mm)			被害状況 (作業報告書より記載)
	日合計	時間最大	10分最大	
平成16年7月18日	197.5	75.0	19.0	福井豪雨: 床上浸水2,125戸、床下浸水6,199戸
平成18年7月17日	125.0	31.5	7.0	床下浸水4戸
平成21年8月2日	94.0	62.5	23.0	床下浸水15戸
平成22年9月16日	108.0	29.0	7.5	床下浸水16戸
平成23年8月19日	84.5	44.5	12.5	床上浸水3戸、床下浸水62戸
平成24年9月6日	133.5	62.5	15.0	床下浸水123戸
平成25年7月13日	69.0	55.0	13.0	床下浸水9戸
平成25年9月3日	87.0	47.0	23.0	床下浸水17戸
平成26年7月20日	77.5	52.5	18.0	道路冠水
平成27年6月16日	13.0	13.0	9.0	道路冠水
平成29年7月24日	26.0	25.0	8.5	道路冠水
平成29年8月25日	69.0	34.5	15.5	道路冠水
平成29年9月7日	45.0	20.0	11.0	道路冠水
平成29年10月22日	109.5	12.0	2.5	道路冠水
平成30年7月5日	106.5	16.5	5.5	道路冠水
令和1年6月21日	48.5	28.5	12.0	道路冠水
令和1年7月18日	78.0	39.0	12.5	道路冠水
令和1年10月3日	36.0	34.5	9.0	道路冠水
令和1年10月19日	35.5	27.5	9.5	道路冠水
令和2年6月14日	103.5	36.0	12.0	道路冠水、床下浸水4戸
令和2年6月28日	78.5	36.5	12.5	道路冠水
令和2年8月11日	46.0	45.0	16.5	道路冠水、床下浸水2戸
令和2年9月4日	56.5	55.0	23.0	道路冠水、床下浸水1戸
令和3年7月8日	43.5	34.5	10.0	道路冠水
令和3年7月29日	107.0	44.0	16.5	道路冠水、床下浸水2戸
令和4年7月3日	102.5	70.0	18.0	道路冠水、床上浸水2戸、床下浸水11戸
令和4年8月4日	152.5	37.0	10.5	道路冠水、床下浸水2戸
令和5年7月13日	106.5	47.5	11.0	道路冠水、床上浸水1戸、床下浸水1戸
令和5年9月6日	57.0	45.5	13.5	道路冠水

令和5年9月末時点

3. 実施方針

本市下水道施設の計画降雨は、合理式による5年確率降雨(43.1mm/h)を基本としているが、平成13年度までは実験式による計画降雨で整備(合流式下水道区域において)を行っていることから、雨水排除能力が不足している状況となっている。

ポンプ場改築・更新事業は、排水区単位で面的に浸水軽減効果が発揮されるが、多額の費用と膨大な時間を要する。そのため、本計画では、一定期間内で効率的に浸水被害の軽減を図る、局地的なハード対策の実施を検討し、年次計画に位置付ける。

本計画策定にあたっての実施方針を以下に示す。

< 本計画の実施方針 >

■ 優先順位の設定

基本計画及び浸水被害の実績・リスクを基に総合的に評価し優先順位を設定する。

1. [基本計画]排水区単位の重点対策地区のリスク評価及び緊急実施地区
2. [実施計画]対策実施箇所ごとの評価
3. [実施計画]対策規模、事業費、他事業との調整

■ ポンプ場更新関連事業との整合

局地的対策を実施していく箇所の選定や対策規模について、ポンプ場更新事業の進捗や整備効果との整合を図る。

4. 対策実施箇所の選定

本計画期間内で浸水対策を検討する対策実施箇所の抽出・評価・選定を行う。

4.1. 対策実施箇所候補地の抽出

対策実施箇所の検討候補地抽出は、水防体制にて被害を確認している近年の浸水被害実績や計画降雨規模の浸水シミュレーション結果(令和5年9月末時点)の浸水想定を基に行う。

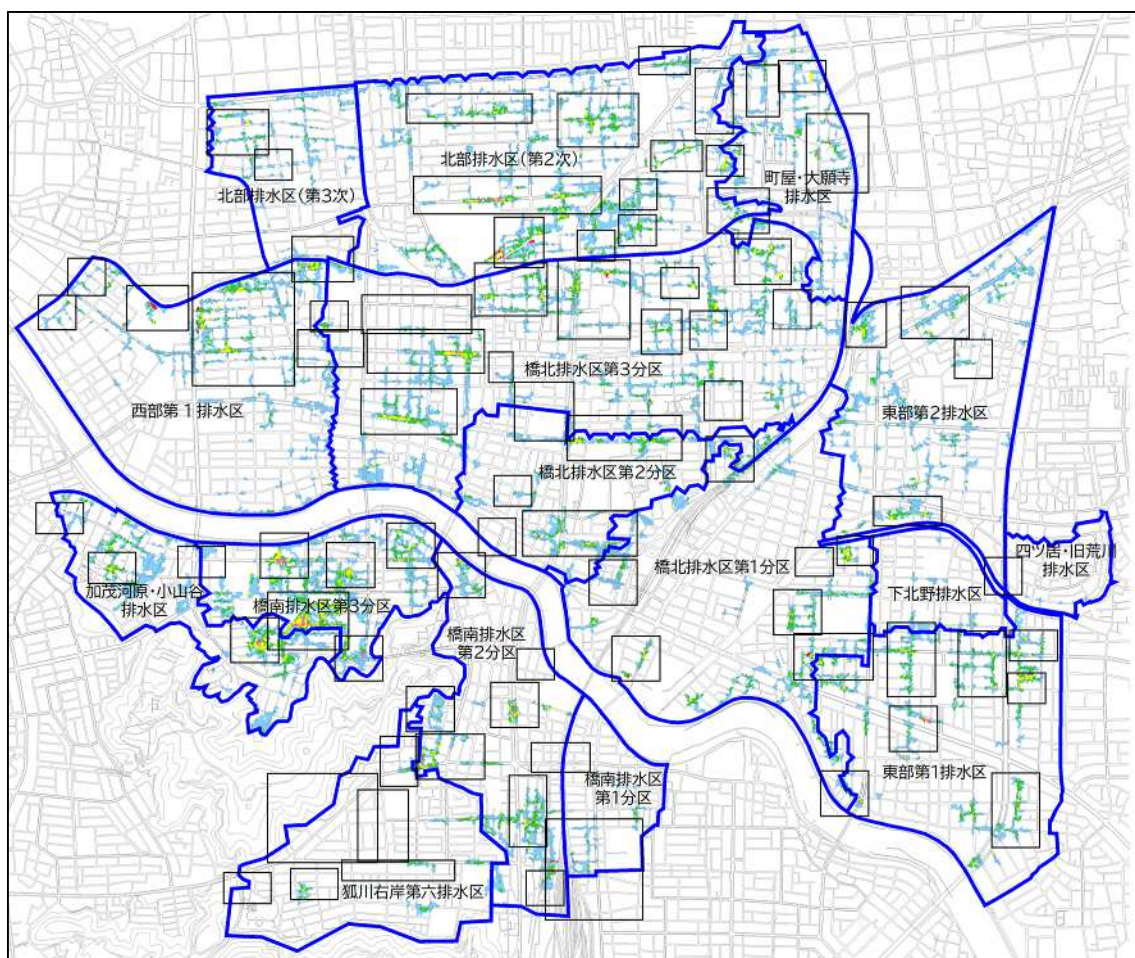


図 4.1 対策実施箇所候補地の抽出

4.2. 対策実施箇所の評価・選定

前項にて整理した箇所ごとに、以下の評価指標を設定し評価する。

4.2.1. 浸水被害の発生頻度による評価

浸水被害の発生頻度は抽出した箇所によって異なる。原因としては、被害発生地点周辺の標高が低いことや、下水道施設の排水能力が特に不足していること等が考えられる。そのため、浸水被害の発生頻度は、浸水対策を検討する上で重要な指標となる。そこで、被害を把握している実績回数を確認し、浸水被害の発生頻度の評価指標とする。実績回数に応じた点数配分を行い、評価する。

表 4.1 浸水被害の発生頻度による評価

項目	評価	点数配分
浸水被害の発生頻度	浸水被害の 実績回数	累積の浸水実績 1回 : 1点
		累積の浸水実績 2～3回 : 2点
		累積の浸水実績 4回以上 : 3点

平成29年度以降の実績を対象とする

4.2.2. 浸水被害リスクによる評価

浸水被害において、浸水の深さによっては道路の交通規制や、家屋浸水のリスクが高くなるため、浸水深は被害のリスクを評価する上で重要な指標となる。そこで、計画降雨規模での浸水シミュレーション結果から箇所ごとの浸水深を確認し、浸水被害リスクの評価指標とする。想定される浸水深ごとに点数配分を行い、評価する。

表 4.2 浸水被害リスクによる評価

項目	評価	点数配分
浸水被害リスク	想定浸水深	10 cm 以上 20 cm 未満 : 1点
		20 cm 以上 30 cm 未満 : 2点
		30 cm 以上 : 3点

4.2.3. 影響度による評価

家屋(床上・床下)浸水被害の発生は、住民財産への影響が大きい。家屋浸水実績を確認し、浸水被害が周辺にもたらす影響度の評価指標とする。家屋浸水実績の有無で点数配分を行い、評価する。

表 4.3 影響度による評価

項目	評価	点数配分
影響度(住民財産)	家屋浸水実績	実績あり : 3点

4.2.4. 計画降雨の対応状況による評価

計画降雨規模の更新を実施した佐佳枝ポンプ場の排水区においては、更新後、浸水被害が大幅に軽減された。ポンプ場改築・更新事業は事業着手・完了まで長期間を要するため、事業の実施状況に応じて、優先的に局地的浸水対策を検討することが重要となる。そこで、箇所ごとのポンプ場改築・更新事業の実施・進捗状況を確認し、計画降雨の対応状況の評価指標とする。状況に応じて点数配分を行い、評価する。

表 4.4 計画降雨の対応状況による評価

項目	評価	点数配分
計画降雨の対応状況	ポンプ場改築・更新 事業の状況	事業実施中または、完了 : 0 点
		貯留施設での計画降雨対応 : 1 点
		計画あり : 2 点
		事業未定 : 3 点

4.2.5. 評価まとめ

前項までに整理した項目に基づき、抽出箇所の評価を行い、評価上位箇所数(評価点8点以上)を排水区ごとに一覧にしたものを表4.5に示す。

表 4.5 排水区ごとの評価結果 一覧

ポンプ場	排水区名	区分	評点上位 箇所数
足羽木田	橋南排水区(第1分区)	-	1
	橋南排水区(第2分区)	重点対策地区	2
加茂河原	橋南排水区(第3分区)	重点対策地区	1
照手乾徳	橋北排水区(第3分区)	重点対策地区 (緊急実施)	1
	橋北排水区(第2分区)	重点対策地区	0
水越	西部第1排水区	重点対策地区 (緊急実施)	1
上里	北部排水区(第2次)	重点対策地区 (緊急実施)	3
	町屋・大願寺排水区		1
分流	狐川右岸第六排水区	-	1

4.3. 実施方針に基づく優先順位の評価結果

3 実施方針で示した優先順位の設定やポンプ場更新関連事業との整合に基づき評価を行い、対策実施箇所の優先順位を決定する。総合的な評価の結果を下表に示す。下表に基づき対策を実施していく。年次計画は、各対策実施箇所の対策手法や規模、事業費等を考慮し決定する。

<実施方針に基づく優先順位の総合評価の考え方>

総合評価 (最優先 / 優先)	
基本計画 リスク評価	実施計画 評点

表 4.6 実施方針に基づく優先順位の総合評価

ポンプ場	排水区名	基本計画 リスク評価	実施計画 評点上位数	総合 評価
加茂河原	橋南排水区(第3分区)	リスク最高 重点対策地区	1	
足羽木田	橋南排水区(第1分区)	-	1	
	橋南排水区(第2分区)	リスク最高 重点対策地区	2	
照手乾徳	橋北排水区(第3分区)	リスク最高 重点対策地区 (緊急実施)	1	
水越	西部第1排水区	リスク高 重点対策地区 (緊急実施)	1	
上里	北部排水区(第2次)	リスク高 重点対策地区 (緊急実施)	3	
	町屋・大願寺排水区	リスク高 重点対策地区 (緊急実施)	1	
分流	狐川右岸第六排水区	-	1	

5. 対策手法の選定

対策実施箇所ごとに、浸水被害を軽減するための局地的な浸水対策の検討・選定を行う。局地的対策を検討するにあたり、各対策実施箇所の浸水要因や現場条件を整理し、各対策箇所に適した対策手法を検討する。

対策手法の選定にあたっては、基本計画の策定目的に掲げている「浸水対策事業を計画的に進めていく」ことを念頭に置き、将来計画(ポンプ場更新事業等)と整合を図る。

本計画では、対策実施箇所が位置する排水区について、将来計画(ポンプ場更新事業等)を想定し、その整備効果を考慮した上で、浸水要因や現場条件に合った手法や対策量を選定する。

5.1. 浸水要因分析及び現場条件整理

基本計画において、排水区単位で浸水要因を分析した結果、「全域的に下水道管路及びポンプ場が能力不足」であることを確認している。本計画では、各対策実施箇所「浸水実績や浸水シミュレーション結果からの浸水要因分析」や「現場条件(地形・整備状況)」を整理する。

表 5.1 浸水要因分析及現場条件整理

ポンプ場	排水区名	主な浸水要因分析・現場条件等
加茂河原	橋南排水区(第3分区)	加茂河原ポンプ場と幹線管路の能力不足による背水に加え、当該箇所周辺の枝線管路の排水能力が不足している。 当該箇所の標高が低く、周辺管路の排水能力を超えた雨水が地表面を流れ当該箇所に集まり浸水被害が発生している。
足羽木田	橋南排水区(第1分区)	足羽ポンプ場と幹線管路の能力不足による背水に加え、当該箇所周辺の枝線管路の排水能力が不足している。 当該箇所の標高が低く、周辺管路の排水能力を超えた雨水が地表面を流れ当該箇所に集まり浸水被害が発生している。
	橋南排水区(第2分区)	
照手乾徳	橋北排水区(第3分区)	清川幹線の能力が不足している。 浸水エリアの標高が低く、くぼ地形状になっている。周辺から雨水が流入してくることも考えられる。 主な浸水の要因として、幹線の能力不足と、くぼ地形状によるものと推測される。
水越	西部第1排水区	枝線管路の能力が不足している箇所が多く、管路の排水能力を超えた雨水が標高が低い箇所に集まり、広範囲で浸水被害が発生している。
上里	北部排水区(第2次)	上里ポンプ場及び経田幹線の排水能力不足による背水に加え、経田幹線につながる枝線管路も排水能力不足である。 浸水エリアの標高が低く、くぼ地形状になっている。 大雨で周辺用水の溢水が生じることがあり、くぼ地へ流入している。 浸水の要因としては、幹線や枝線の能力不足と、くぼ地形状等の複合的な要因によるものと推測される。
	町屋・大願寺排水区	上里ポンプ場及び町屋幹線の排水能力不足による背水に加え、町屋幹線につながる枝線管路も排水能力不足である。 浸水エリアの標高が低く、周辺管路の排水能力を超えた雨水が集まり浸水被害が発生していると推測される。
分流	狐川右岸第六排水区	既存の排水マンホールポンプについて、ポンプ能力と流入口からの取水のバランスが取れていない状況が見受けられる 既存浸水対策施設をさらに活用できないか検証する必要がある。

5.2. ポンプ場改築・更新計画整理

前述したとおり、対策手法を選定するにあたり、将来計画であるポンプ場改築・更新事業との整合を図る。関連するポンプ場改築・更新事業の内容を以下に示す。

表 5.2 ポンプ場の改築・更新関連事業

加茂河原ポンプ場	
排水区	橋南排水区 第3分区(重点対策地区)、加茂河原・小山谷排水区
進行中事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在、老朽化・能力増強に伴うポンプ場の改築・更新 工事中 ■ ポンプ場の改築・更新に合わせた雨水増補幹線・増補管工事
運用時期	令和5年度 供用開始予定

足羽ポンプ場	
排水区	橋南排水区 第1分区、橋南排水区 第2分区(重点対策地区)
進行中事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 老朽化・能力増強に伴うポンプ場の改築・更新の実施設計 ■ ポンプ場の改築・更新に合わせた雨水増補幹線の実施設計 ■ 雨水増補幹線布設に合わせた増補管の実施設計
運用時期	令和10年度 供用開始予定

菅谷ポンプ場	
排水区	橋北排水区 第2分区、橋北排水区 第3分区(重点対策地区)、西部第1排水区(重点対策地区)
進行中事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 老朽化・能力増強に伴うポンプ場建設の基礎検討 ■ ポンプ場建設に合わせた雨水増補幹線の基礎検討
運用時期	供用開始未定

加茂河原ポンプ場と足羽ポンプ場については、改築・更新事業による供用開始予定が5年以内である。そのため、本計画ではそれらに該当する排水区内の箇所における対策としては、ポンプ場改築・更新事業にて対策するものとして整理する。

菅谷ポンプ場の排水区(現時点では、橋北排水区第2、3分区、西部第1排水区)については、計画降雨基準の雨水ポンプの排水能力と雨水増補幹線の整備によって、大きな浸水被害軽減効果が期待される。菅谷ポンプ場の供用開始予定までの期間を考慮し、菅谷ポンプ場及び雨水増補幹線の整備効果を踏まえながら、必要となる局地的対策を検討することとする。

なお、上里ポンプ場については、放流先である底喰川への雨水ポンプによる排水量の増加が困難であり、現時点で改築・更新事業計画はない。

5.3. 対策手法の選定

5.3.1. 対策目標の設定

対策実施箇所ごとの局地的対策は、貯留施設等の雨水流出抑制施設がある。既存下水道の能力不足の現状から、浸水被害を軽減するためには、中大規模の施設整備が必要となる。

そこで、それらの整備を対策実施箇所の優先順位に基づき実施することに加え、現場の状況から小規模対策等により早期の浸水被害軽減が可能な箇所については、同対策を検討する。状況に応じ、対策手法を組み合わせながら段階的な浸水被害軽減に取り組んでいくものとする。

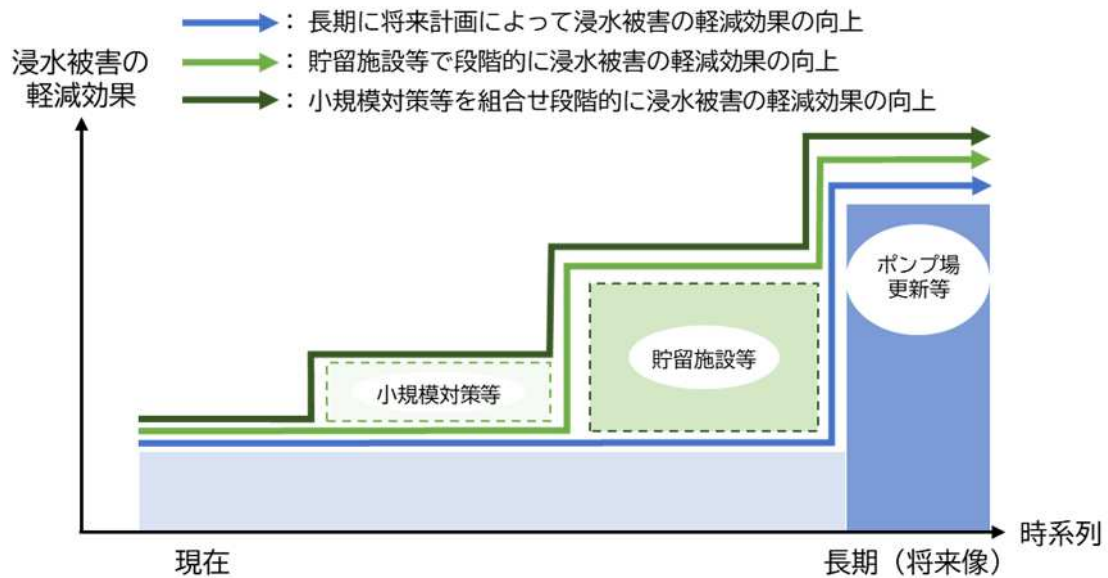


図 5.1 組合せによる段階的な浸水対策の時系列イメージ図

対策規模によって浸水軽減効果は異なる。規模の異なる対策の組合せによる段階的な浸水軽減のイメージを図 5.2 に示す。

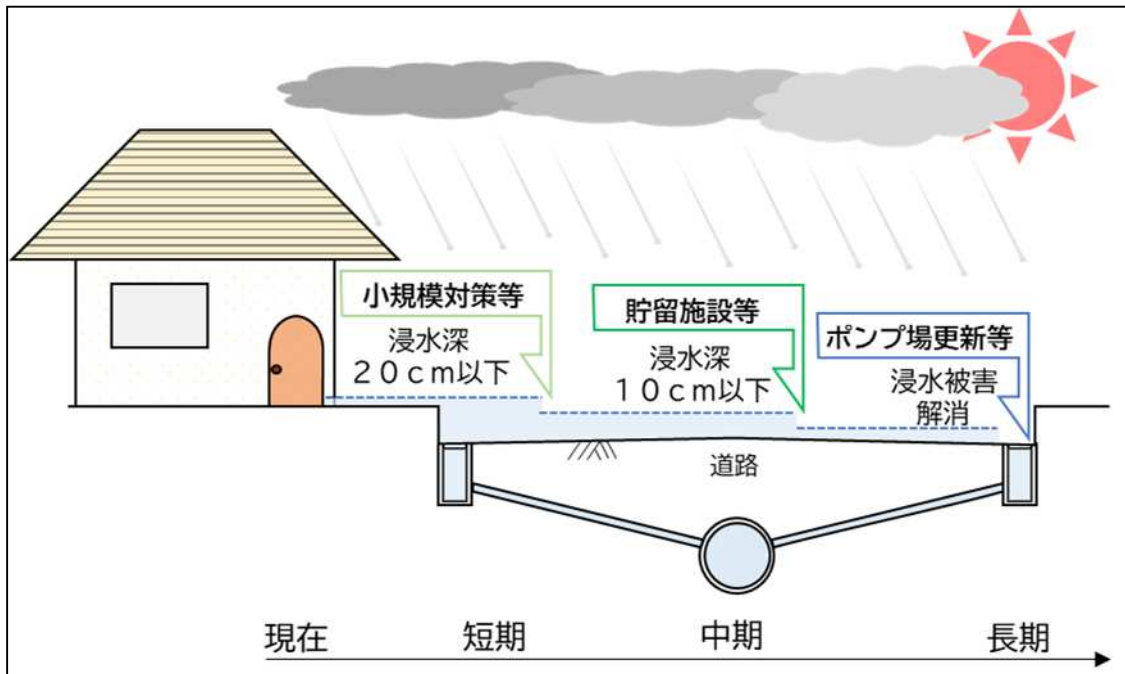


図 5.2 箇所ごとの段階的な浸水被害軽減イメージ図

5.3.2. 対策手法の選定

前項までに整理した内容を踏まえて、対策実施箇所ごとの対策手法の選定を行う。以下に箇所ごとの状況に合わせた対策手法の組合せを示す。

表 5.3 主な対策手法一覧

箇所ごとの状況	対策手法
広範囲に浸水が発生 浸水深が深い 既存下水道能力不足	雨水流出抑制施設(雨水貯留施設) 周辺に公共用地あり:用地地下貯留の検討 幹線等一定の道路幅員あり:道路地下貯留の検討 増補管の検討 小規模対策(雨水貯留施設)
局地的にくぼ地形状	くぼ地対策(道路の嵩上げ検討)(道路管理者と連携) 小規模対策(集水側溝)
近傍用水からの溢水	用水運用改善検討(水路管理者と連携)
既存施設の能力余剰	既存施設の最大限の活用検討

詳細な対策メニュー及び事例は基本計画 P46 ~ P54 に記載

排水区ごとの対策実施箇所において実施する対策手法を以下に示す。

表 5.4 排水区ごとの対策手法一覧

ポンプ場	排水区名	対策手法
加茂河原	橋南排水区(第3分区)	ポンプ場更新、増補幹線整備
足羽木田	橋南排水区(第1分区)	ポンプ場更新、増補幹線整備 増補管整備
	橋南排水区(第2分区)	
照手乾徳	橋北排水区(第3分区)	くぼ地対策(道路管理者と連携) 雨水流出抑制施設(雨水貯留施設) 菅谷ポンプ場建設事業計画と調整を行う
水越	西部第1排水区	雨水貯留施設の改良(先行実施) 増補管の検討 菅谷ポンプ場建設事業計画と調整を行う
上里	北部排水区(第2次)	雨水流出抑制施設(雨水貯留施設) くぼ地対策(道路管理者と連携) 水路管理者協議 小規模対策(集水側溝) 小規模対策(雨水貯留施設)
	町屋・大願寺排水区	雨水流出抑制施設(雨水貯留施設)
分流	狐川右岸第六排水区	小規模対策(排水施設)(先行実施) 既存施設の活用検討

6. 年次計画

年次計画は、各対策実施箇所の対策手法や規模、事業費等を考慮して決定する。

表 6.1 年次計画

ポンプ場	対策箇所	事業期間											
		短期					中期					長期	
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度以降	
加茂河原	橋南排水区(第3分区)	加茂河原ポンプ場改築・更新事業											
足羽木田	橋南排水区(第1分区) 橋南排水区(第2分区)	足羽ポンプ場改築・更新事業											
菅谷	-	菅谷ポンプ場建設事業											
照手乾徳	橋北排水区(第3分区)		小規模対策の整備										
					くぼ地対策(連携)								
							雨水貯留施設の整備						
水越	西部第1排水区	先行実施							増補管の整備検討				
上里	北部排水区(第2次)		小規模対策の整備										
			雨水貯留施設の整備										
			雨水貯留施設の整備										
					雨水貯留施設の整備								
			水路管理者協議										
		くぼ地対策(連携)											
	町屋・大願寺排水区				雨水貯留施設の整備								
狐川右岸第六排水区		既存施設の活用											
	先行実施							既存施設の活用検討					

	: ポンプ場更新事業
	: 比較的大規模な対策
	: 小規模対策等

対策スケジュールは設計委託期間等を含む

7. 実施計画管理マップの作成

前項までに整理した本計画における対策手法の整理結果を基に実施計画管理マップを以下に示す(下図浸水シミュレーション結果は令和6年3月時点)。

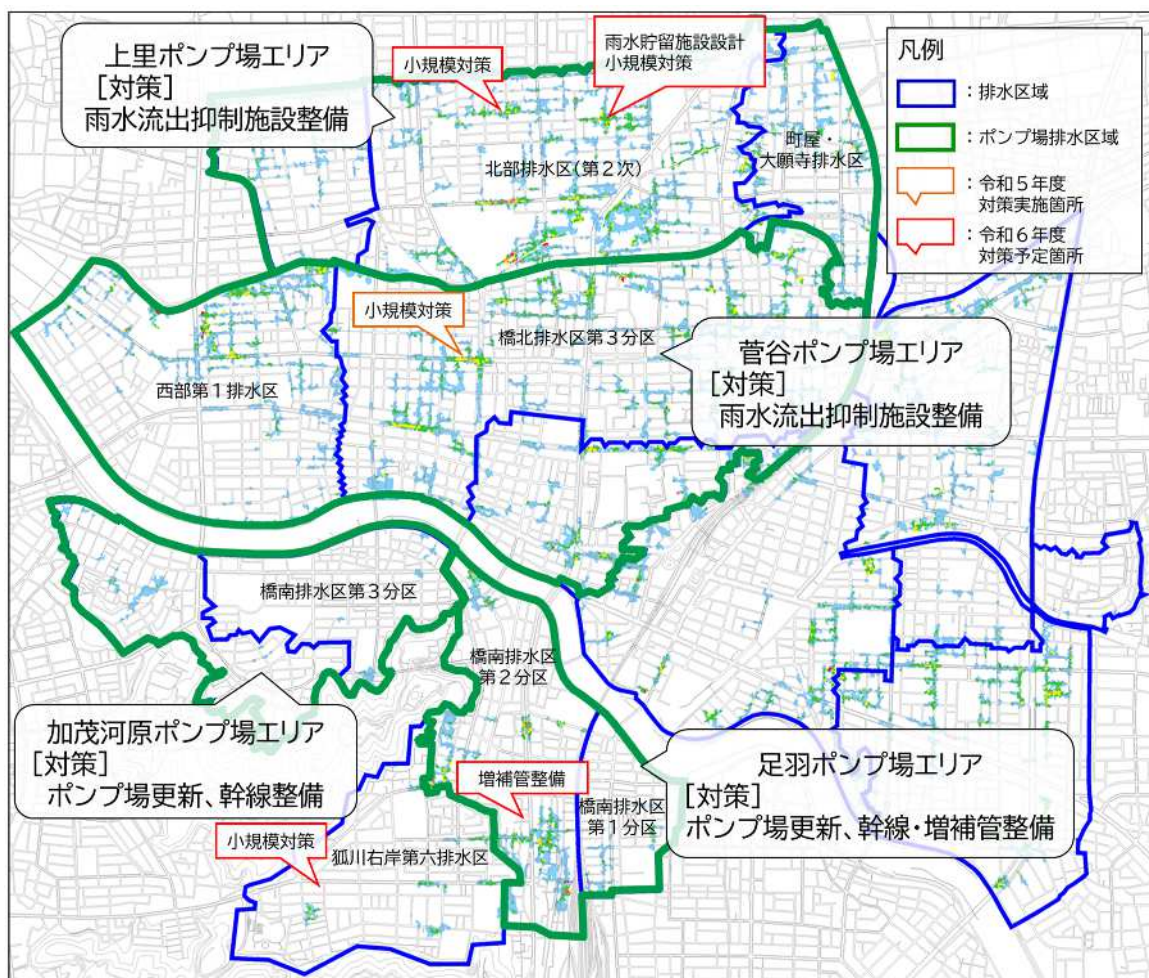


図 7.1 実施計画管理マップ

表中に令和5年度の対策実施箇所及び令和6年度に順次対策を実施していく予定箇所を記載している。

本市における今後の局地的浸水対策は、主に菅谷ポンプ場排水区エリアと上里ポンプ場排水区エリアの2つを大きな軸として推進していく。

8. 今後の課題

8.1. 本実施計画対策事業の進捗管理

基本計画における事業進捗の管理指標としては、雨水対策対応率を用いている。本計画の進捗管理としては、雨水対策対応率と合わせて、対策実施箇所数について、短期・中期間ごとの対応数に応じて進捗を管理する。

また、各対策については、整備後に追跡調査し、降雨時の浸水被害軽減効果を検証していくものとする。

表 8.1 対策実施箇所対応進捗管理

期間	短期(～令和8年度)	中期(～令和13年度)
目標対応(箇所)数	3	8

対策実施箇所の内、ポンプ場更新事業にて対応する箇所を含む

今後、計画的に雨水対策を実施し、浸水被害軽減を図っていく。

8.2. 計画の見直し

実施計画は、基本計画と同様に5年程度を目途に計画を見直すものとする。

また、期間内における浸水被害の発生状況によって、必要に応じ随時見直しを検討するものとする。